

中野四季の森公園における自転車駐車場整備等について

中野四季の森公園地下自転車駐車場に係る都市計画原案説明会を開催したので報告する。

また、中野四季の森公園地下自転車駐車場の都市計画手続きに関連して、区の行政計画である「中野駅周辺自転車駐車場整備計画」について、平成29年1月に策定したので報告する。

1. 都市計画原案説明会の開催結果について

- ・日 時：平成29年1月16日（月）19時から20時30分
- ・会 場：中野区役所7階 会議室
- ・参加者：8名
- ・主な意見等

都市計画原案の内容に係る意見はなかったが、自転車駐車場の仮移転時における収容台数維持、整備後における自転車利用ルールの指導及び安全対策等について要望があった。

2. 中野駅周辺自転車駐車場整備計画の要旨（計画（抄）は別紙参照）

平成26年7月に策定した中野区自転車利用総合計画（改正版）において、中野駅周辺の自転車駐車場は、既に収容台数が確保されているため、乗入れの増加に伴う新設あるいは増設を行うのではなく、今後は近距離利用の抑制などの適正利用と効果的な放置対策を検討することとしている。

この方針を踏まえ、中野駅周辺における自転車の放置防止や自転車交通に係る課題解決を目的とした自転車駐車場整備を進めるため、中野駅周辺自転車駐車場整備計画を策定した。

中野駅周辺の自転車駐車需要について、現況の利用者の利用圏域及び利用状況のまま将来推計すると、将来的にも現況と同様の駐車需要：約7,500台が見込まれる。

しかし、今後の中野駅周辺のまちづくりに伴い、駅直近において歩行者交通量が増加することが想定されるため、自転車と歩行者の交錯等が生じないように、自転車駐車場を駅から離れた位置に適正な規模で分散配置するとともに、自転車駐車需要をコントロールし、歩行者と自転車の安全性や快適性を確保していく必要がある。

このことから、将来の自転車駐車需要のうち、定期利用に係る需要を適正に誘導することとし、中野駅周辺全体の自転車駐車場における整備台数を約6,000台に定め、中野駅周辺の適切な位置に分散して配置する。

中野駅周辺自転車駐車場整備計画 (抄)

平成29年(2017年)1月

中 野 区

3. 放置自転車の状況及び自転車駐車場整備の対象区域

1) 放置自転車の対策及び自転車駐車場整備の対象区域

中野区内の駅周辺では、昭和50年代に放置自転車が急増した。このため、区では昭和61年に「自転車駐車場条例」を制定し、自転車駐車場の整備を進めた。また、昭和63年には「自転車等放置防止条例」の制定および放置自転車の規制区域の設定を行い、放置自転車の撤去を開始した。

中野駅周辺においても、昭和63年10月に自転車等放置規制区域の指定を行い、暫定的な自転車駐車場を規制区域内に適宜整備するとともに、放置自転車の防止指導と公道等に放置されている自転車の撤去を行っている。

このことから、中野駅周辺における自転車等放置規制区域を、自転車駐車場整備の対象区域として設定する。



図－2 中野駅周辺の自転車等放置規制区域
及び自転車駐車場整備の対象区域

2) 放置自転車台数の推移

過去5年間の放置自転車台数は200～300台程度で推移している。

表－1 放置自転車台数（過去5年間）

調査年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
放置自転車台数（台）	197	258	296	223	292

（参考：東京都青少年・治安対策本部「駅前放置自転車の現況と対策」各年度版）

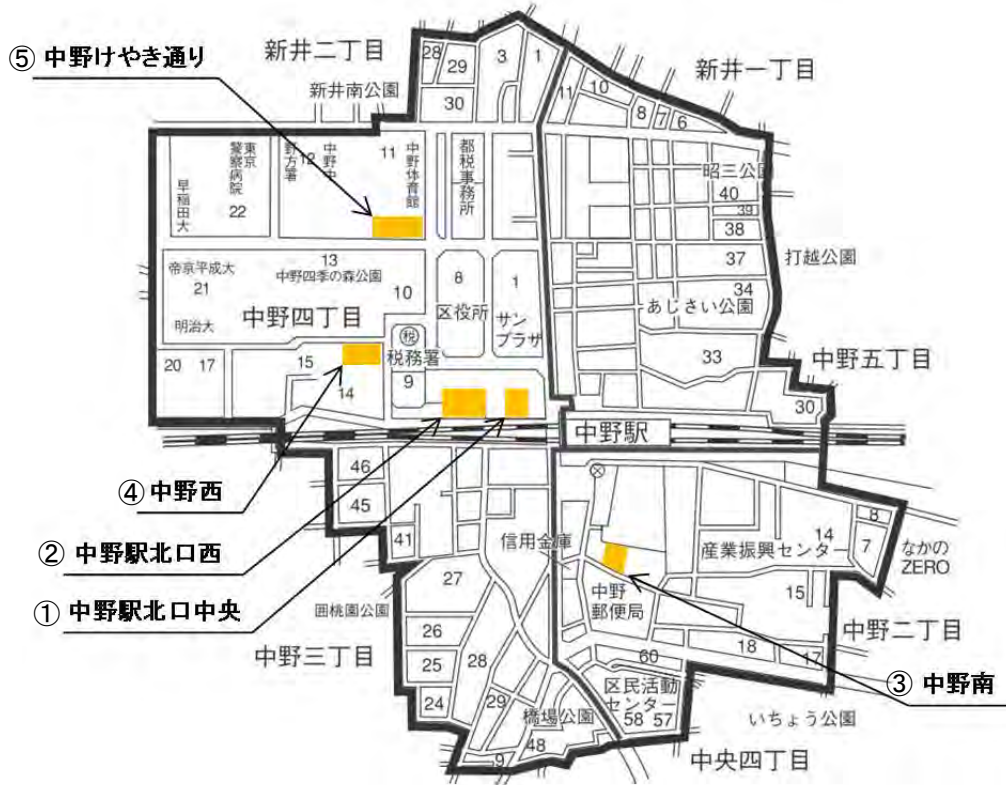
調査方法：各年10月中、晴天の平日のうち任意の一日、概ね午前11時頃の駅周辺における自転車の放置台数。

4. 過年度の自転車駐車場に係る整備及び利用の傾向

1) 配置及び収容台数

平成 23 年度から平成 27 年度の過去 5 年間においては、自転車駐車場の収容台数は全体で約 7,500 台前後を維持している状況となっている。

なお、現況の自転車駐車場は、中野駅周辺の各まちづくりの進捗に伴い廃止となるため、再整備する位置及び規模等について本整備計画で定める必要がある。



図－3 自転車駐車場の配置

表－2 自転車駐車場の収容台数

(台)

名称	設置年月	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
① 中野駅北口中央	昭和 62 年 10 月	3,732	3,466	3,466	3,436	3,436
② 中野駅北口西	平成 11 年 1 月	1,211	1,211	1,211	1,211	1,211
③ 中野南	平成 11 年 12 月	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
④ 中野西	平成 22 年 11 月	665	665	665	665	665
⑤ 中野けやき通り	平成 23 年 10 月	833	833	833	833	833
合計	—	7,741	7,475	7,475	7,445	7,445

2) 利用の傾向

平成 23 年度に実施した「中野駅周辺駐輪場利用者実態調査」の調査結果より、利用者の利用頻度は図-4のとおりとなっている。

平日利用の割合（最大値）は 94.4%（毎日利用：56.6%、平日のみ：29.7%、ほとんど利用しない・その他・無回答：8.1%）、休日利用の割合（最大値）は 70.1%（毎日利用：56.6%、休日のみ：5.4%、ほとんど利用しない・その他・無回答：8.1%）となっており、自転車駐車需要は平日の方が高いといえる。

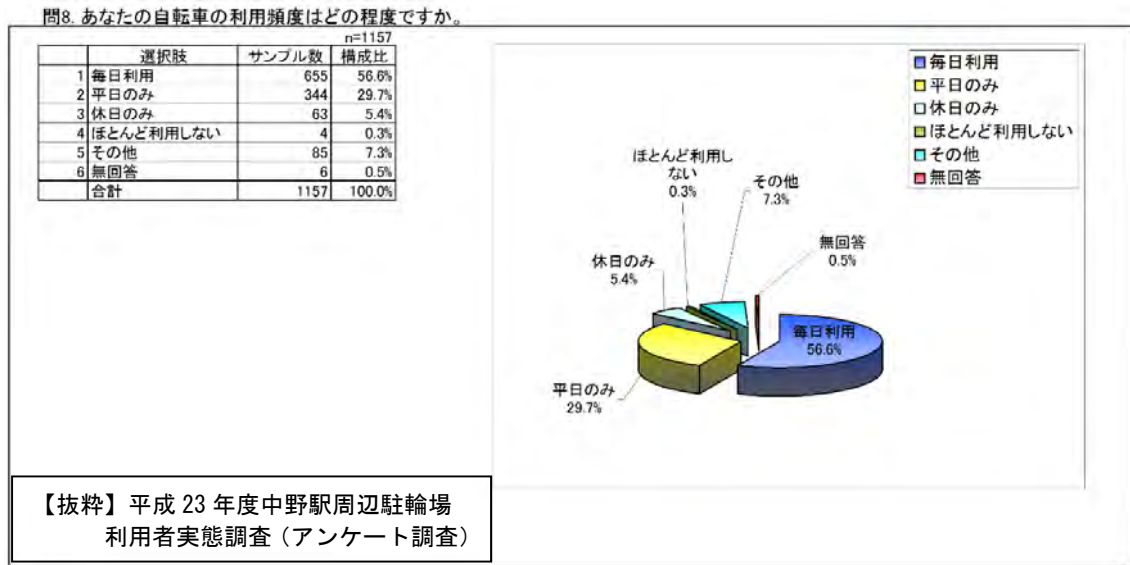


図-4 中野駅周辺の自転車駐車場の利用頻度

この結果に基づき、平日の駐車台数の最大値を推計すると表-3のとおりとなるが、実際には利用者の利用時間帯等に完全には重ならないため、自転車駐車場全体の収容台数（約 7,500 台）に対するピーク時の駐車台数は平日で約 7 割程度となっている。

なお、表-3のとおり過年度における平日の駐車台数の最大値は 7,259 台となっており、表-2 で示す過年度の収容台数の範囲内に収まっている。

表-3 平日の駐車台数の最大値

	①一日当たりの 平均利用件数 (定期利用登録者数+ 1日利用の平均件数)	平成 23 年度中野駅周辺駐輪場実態調査結果 自転車の利用頻度について			①×(②+③+④) 平日の駐車台数の 最大値
		②毎日利用	③平日のみ	④その他、ほとんど 利用しない、無回答	
平成 23 年度	7,063 件	56.6%	29.7%	8.1%	6,667 台
平成 24 年度	7,203 件				6,800 台
平成 25 年度	7,481 件				7,062 台
平成 26 年度	7,690 件				7,259 台
平成 27 年度	7,673 件				7,243 台

5. 自転車駐車需要の推計と整備すべき台数

1) 自転車駐車需要の推計方法

自転車駐車需要は、平成 20 年度に公表されているパーソントリップ調査（以下「H20 P T」という。）の各小ゾーン※¹における中野駅端末自転車利用トリップ数、将来人口の伸び率等を用い、平成 37 年度及び平成 47 年度について推計する。

※1 小ゾーンとはH20PTにおける区分であり、夜間人口約 15,000 人を目安として、地区計画の単位となるゾーンレベルである。

2) H20PT における自転車利用者の方面別割合

H20PT より中野駅端末自転車利用トリップ数及び、全体トリップ数に対する割合を図-5に示す。中野駅を利用する自転車利用者の約7割が中野駅を中心として北西部から発生しており、自転車利用者が非常に広域にわたっていることが確認できる。

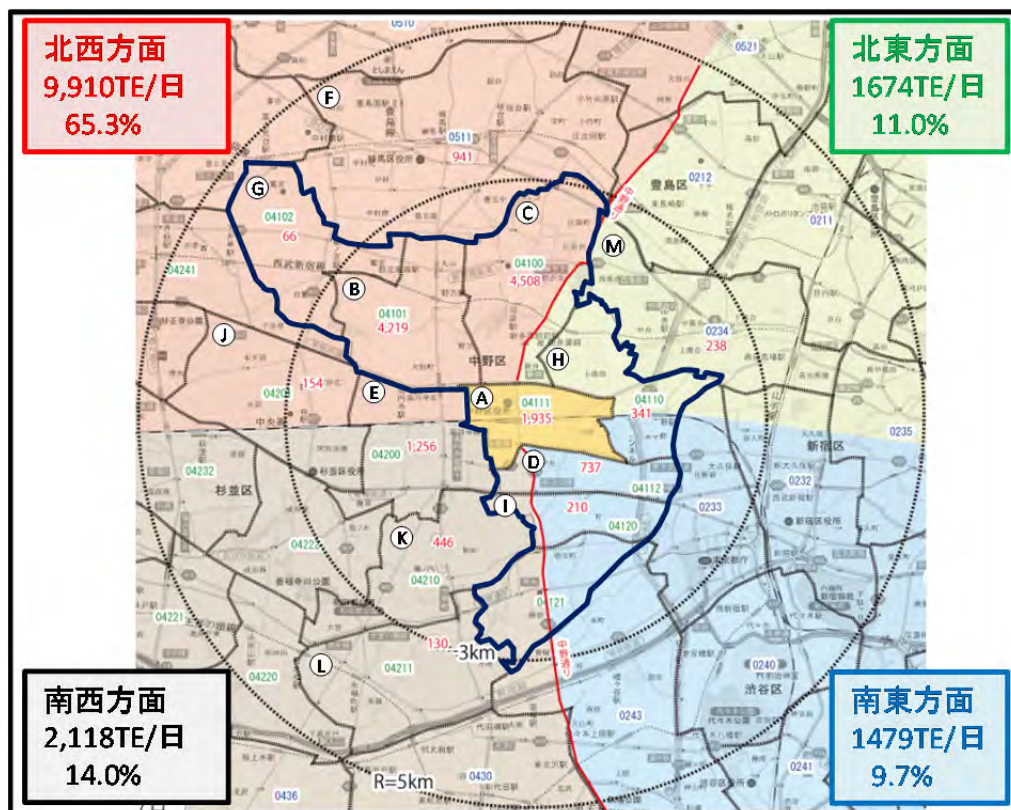


図-5 H20PT 中野駅端末自転車利用トリップの分布・割合

表-4 方面別利用割合

	北西方向 四丁目	北東方面 五丁目	南西方面 三丁目	南東方面 二丁目	合計
方面別割合 (%)	65.3	11.0	14.0	9.7	100.0

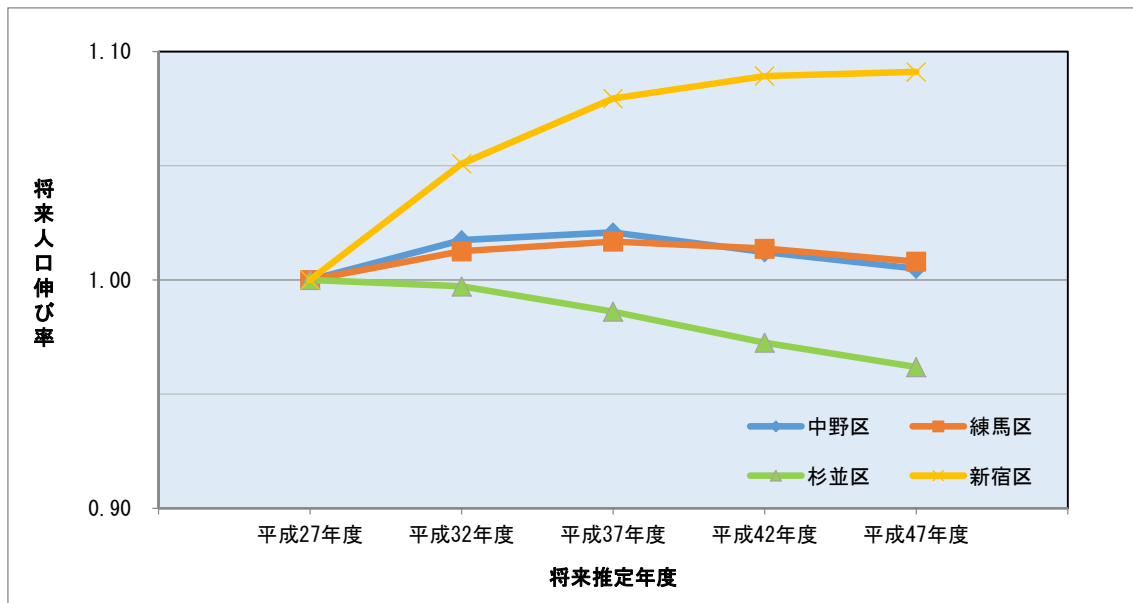
3) 将来人口伸び率

将来人口伸び率については各区の人口推計値を用い、平成 27 年度に対する平成 37 年度及び、平成 47 年度の人口伸び率を算出した。杉並区は将来的に伸び率が減少傾向となり、中野区、練馬区は現状を維持し、新宿区は増加傾向となっている。

表－5 将来人口伸び率

	中野区	練馬区	杉並区	新宿区
平成 37 年度	1.021	1.017	0.986	1.079
平成 47 年度	1.005	1.008	0.962	1.091

※平成 27 年度を 1.000 とした際の伸び率の値を示す。



図－6 将来人口伸び率

参考：中野区「中野区まち・ひと・しごと創生総合戦略」平成 28 年(2016 年)3 月

練馬区「練馬区人口ビジョン」平成 27 年(2015 年)12 月

杉並区「杉並区人口ビジョン」平成 27 年 9 月

新宿区「新宿区人口ビジョン」平成 28(2016)年 1 月

4) 自転車駐車需要の推計

自転車利用率と将来推計人口から、下記の通り自転車駐車需要（平日の駐車台数の最大値）の推計を行った。自転車駐車需要は利用頻度を考慮した場合（表-3 参照）、平成 27 年度で 7,516 台、平成 37 年度で 7,644 台、平成 47 年度で 7,526 台となり、大きな社会情勢の変化や将来推計人口が大きく変動しなければ、20 年後までは、概ね現況の需要台数で推移していくものと考えられる。

表-6 自転車駐車需要の推計

年 度	平成 27 年度	平成 37 年度	平成 47 年度
自転車駐車 需要台数	7,516 台	7,644 台	7,526 台

5) 自転車駐車場整備の考え方及び整備台数

現況の利用者の利用圏域及び利用状況のまま自転車駐車需要を推計すると、表-6のとおり将来的にも現況と同様の需要(約7,500台)が見込まれるが、区内外の広範囲から自転車が中野駅に集中することにより、駅周辺の歩道部においては歩行者と自転車の交錯等が生じており、今後の整備台数は中野駅周辺のまちづくりの方針と整合した適切な台数を設定する必要がある。

中野駅周辺は駅周辺中心部を歩行者優先とした公共交通指向のまちとなるよう、自転車駐車場の分散配置、駅前広場等の整備を進め、歩行者空間の安全性・快適性およびバス等の公共交通の利便性を向上させていくこととしている。

この考え方に基づき、将来の自転車駐車場整備と合せ、中野駅周辺の自転車駐車場の定期利用については下記の取り組みによる適正利用を誘導していく。

また、これらの取り組みによる自転車駐車需要を想定し、本整備計画では将来の中野駅周辺全体の整備台数を約6,000台とする。

【中野駅周辺の自転車駐車場の定期利用に係る取り組み】

○中野駅周辺の自転車駐車場については、駅から200m~300m程度の位置に分散配置し、今後整備していく。これに伴い、自転車駐車場の定期利用要件「最寄りの駅から職場や学校、居住地が直線距離で概ね500m以上離れていること」の距離を見直し、概ね700m程度に拡大する。

【中野駅以外の鉄道駅の利用促進に係る取り組み】

○現状2~3km程度に居住している中野駅の利用者は、他の鉄道駅も利用可能であるため、2km以上離れている利用者については中野駅以外の最寄り駅の自転車駐車場に誘導する。

○中野駅以外の駅周辺の居住者が最寄り駅を利用しやすいよう、中野駅以外は駅直近に自転車駐車場を配置・整備する。あわせて、自転車駐車場の定期利用要件「最寄りの駅から職場や学校、居住地が直線距離で概ね500m以上離れていること」の距離を見直し、概ね300m程度に縮小する。

上記の取り組みについては、中野駅周辺の自転車駐車場の利用実態を適宜確認し、運用を図っていく。

6) 将来における自転車駐車場の方面別整備台数

各方面別の整備台数は、表一七のとおり設定する。

表一七 将来における自転車駐車場の方面別配分

	北西方面 (中野四丁目側)	北東方面 (中野五丁目側)	南西方面 (中野三丁目側)	南東方面 (中野二丁目側)	合計
方面別の割合 (%)	65.3	11.0	14.0	9.7	100.0
方面別の収容 台数 (台)	3,918	660	840	582	6,000
将来の方面別 配分 (台)	約 4,500	—	約 1,000	約 500	約 6,000

なお、北東方面（中野五丁目側）については、商店街が広がっていること、細街路が多く歩行者が多いこと、自転車が安全に通行できる環境にないことから現状は配置しないこととし、自転車利用者をアクセス性の良い北西方面（中野四丁目側）の自転車駐車場に誘導する。

